

学生が主体となり伸びる教育の展開 ー学生が育ちあう場としての3つのコモンズ

椿 明美、武井昭也、田部井祐介、中津川雅宣、（研究協力）平塚彰、辻拓

1. はじめに

令和4年度より全学共通教育の新カリキュラムを展開するにあたり、「学修成長度（伸びしろ）日本一」の実現を進めるため、学生が主体となり考え行動し、実社会で通用する実力を付ける場としてラーニング・コモンズ(Learning Commons)を始動する。本学のラーニング・コモンズは、ライティングラボ、グローバル・コモンズ、ICT・コモンズの3つで、それぞれは学生が自由に使用できる空間として、さらに授業の補完、発展的な取組の場としてラーニング・コモンズを設置する。

ラーニング・コモンズは主に学習をより強化する場、グローバル・コモンズは語学や文化、留学生など海外との繋がりや国際感覚を磨く場、そして ICT・コモンズは情報スキルを向上させ、知識・スキルを実践の場で活用できる力を育成する場としてスタートをする。特にピア・サポート制導入により、上級生が下級生をサポートすることで、優秀な学生は自らの力を試し、自らに誇りを持ち後輩のお手本となっていく。後輩はその先輩の姿を見て自身のロールモデルとして志気を高めることを意図している。コモンズが学習の場としてあるとともに、学生同士が育ちあう場として「伸びしろ」を見出しその向上に資するものである。

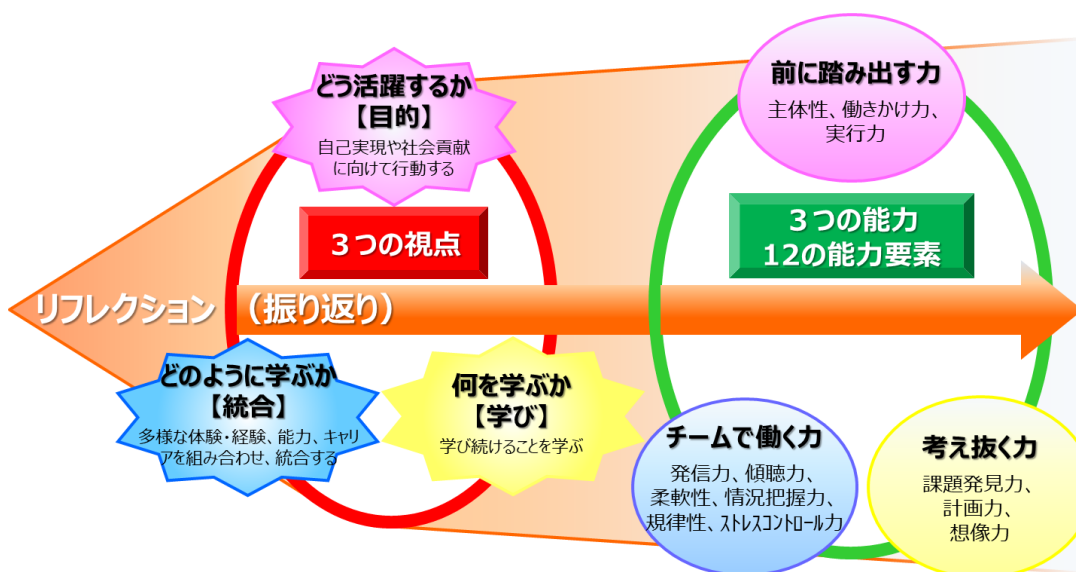
2. 研究の背景

グローバル化、Society5.0時代、さらにコロナにより社会システムが大きく変化する中、社会で求められる人材像も変化している。経産省が提唱する社会人基礎力（2006）は、さらに第4次産業革命という背景の中で、「人生100年時代の社会人基礎力」（2018）（図1）として姿を変え、「これまで以上に長くなる個人の企業・組織・社会との関りの中で、ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力」と定義された。新たに社会人基礎力を身に付けるための3つの視点として、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「どう活躍するか」が加わった。これにより、社会人基礎力の3つの能力／12の能力要素を身に付けるための振り返り（リフレクション）の重要性等、教育の具体的な方向性が見いだせる。

2022年度新カリキュラム全学共通教育は「SIUスタンダード」と称し、全学部学科の学生が大学で学修するための基盤形成をする役割を担う。新たな社会人基礎力を身に付けるためには、自ら考え、主体的に活動する必要がある。授業、地域活動、フィールドワークなどにおいて、学生の成長を図るには、その準備やグループ活動、リフレクション（振り返り）などを、授業時間の合間や放課後を活用して行うことが鍵となる。ラーニング・コモンズを

利用して学生が自主的に活動し、その中で学生同士が育ち合ことになるだろう。このような活動の場を通じて自ら学び続ける力を養い、様々な知識、経験を統合することで、将来社会に出て自分の頭で考え、行動でき、自分のライフステージにおいて選択する力に結び付いて行くと推測する。

図1 「人生100年時代の社会人基礎力」



経済産業省「社会人基礎力」

<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>

3. 研究の目的

本学学生の持っている可能性を引き出し伸ばすため、先進的事例をもとに3つのコモンズの活用について考察し、制度、運用方法を検討するシステムを構築することを目的とする。授業と連動しながらコモンズで学生の能力を高めること、また授業とは関連しない学生独自の意欲的な活動の場としてもその可能性を探る。

4. 研究の方法

本研究は3つのコモンズの制度構築と運用について検討するため、先進的大学の訪問調査を実施する。この調査結果および論文、資料、Webからの取り組み状況等で得られた知見

をもとに、本学のコモンズで学生が共に育ち合う場として、どのようにあるべきかを検討し、日本語表現力、数的処理、異文化交流、グローバル感覚、ICT スキル等を高めるための実効性のあるシステムを構築する。

5. 他大学ラーニング・コモンズのコンセプトと内容

ラーニング・コモンズの定義は大学によって、また研究者によって様々であるが、各大学の共通点は、学生の主体的な学びの場、学び合いの場であり、そこから新しいものを生み出す創造的な空間であることである。それは高等教育にアクティブラーニングを導入するという、教育のオープン化にともなう新たな教育の場（米澤、2009）という観点からもその意義を呈している。授業外での学習活動を主体的に行う場として、さらに予測不可能な時代にあって、問題解決、新たなものを創造する能力開発の場でもある。

以下に大規模大学と本学に近い中小規模大学を選定し、ラーニング・コモンズのコンセプトを列举してみる。

（1）立命館大学（大阪いばらきキャンパス）

立命館大学大阪いばらきキャンパス（OIC）は、キャンパス全体をラーニングプレイスにと位置づけ、「いつでも、どこでも、誰とでも学び、学び合う、学び合える空間」として、柔軟性、多様性、曖昧さ、シェア、育てるの5つをコンセプトにしている。

（2）同志社大学

ラーニング・コモンズとは、情報を知識に、知識を創造に変えていく「新しい学びの広場」として、さまざまなヒト・モノ・コト・情報と出会い、それらを仲間とともに議論し展開していくことで、新しい学びの可能性を生み出していく場、としている。

（3）北星学園大学

北星学園大学のラーニング・コモンズは、学生どうしの「出会い」と「創造」の場、としている。

（4）関西大学

ラーニング・コモンズとは、学生たちが「知」を共有できる創造的な学習空間のことである。自由な発想で学び、「知」を共有する。自主学習のためのスペースである、としている。

（5）梅光学院大学

2019年「The Learning Station CROSSLIGHT」クロスライトという新校舎が完成した。こ

の校舎は、学びを変える、働き方を変える、場が人を成長させるというコンセプト創られており、立命館大阪いばらきキャンパスと同様、校舎全体がラーニング・コモンズとなっている。校舎の3つのコンセプトは以下のとおりである。教職協働のオフィスは他大学には見られない場である。

Concept 1 光と風と人が交錯する オープンな空間

Concept2 自分で考え、新しい価値を生み出していく力を育む場

Concept3 日本初！教職協働のフリーアドレスオフィス

（6）東北公益文化大学

学生の自主的・自律的な学習のため、電子情報や印刷物など様々な情報資源を使って議論などができる共有の「学習の場」としている。

6つの大学から把握できるラーニング・コモンズのコンセプトは、「創造」、「新しい価値を生み出す」、「学生同士」、「学び合う」などが共通している点である。ラーニング・コモンズは学生同士が共に新しい価値を創造できる力を身に付ける場となるよう構想されて創られていることがわかる。

6. ラーニング・コモンズの展開内容

ラーニング・コモンズの展開内容について、各大学のホームページから情報を収集し、その内容、運用について記載する。

（1）立命館大学（大阪いばらきキャンパス）

このコモンズの特徴は、キャンパス全体をラーニングプレイスとして構想されており、オープンかつパブリックな空間として、キャンパスのいたるところに学生が学修する場があり、ラーニング・コモンズのある場所に行って学修やグループワークをするという一般の概念を覆すものである。

「知の集積・知の発信」、「個の集団・個の共存」、「多様性・柔軟性・曖昧さ」という3つのコンセプトのもと、25の正方形で構成されたピクトがキャンパス内で展開されている。

図2



（立命館大学（大阪いばらきキャンパス）HPより参照）

<http://www.ritsumei.ac.jp/oic-commons/>

コモンズの運営に関しては、Commons 活用 8 か条で基本マナーが示されているようである。

【Commons 活用 8 か条】

- ① 他の利用者の迷惑にならないように。
- ② 他の利用者を真似る、自分流にアレンジする、自分のスタイルを確立する。
- ③ 動かしたものは、元の場所へ。書いたものは消すこと。ゴミはゴミ箱へ。
- ④ BYDO(Bring your own device)自分の学修・活動スタイルにカスタマイズされた自分のデバイスを活用しよう。
- ⑤ My マーカー持参で、いつでも、どこでも。
- ⑥ Commons は共有空間。占有/専有はせずに利用者みんなでシェアしましょう。
- ⑦ Commons でのアクティビティを自分自身でデザインしよう。
- ⑧ 学生証必携。複合機や機器の貸出、Commons の利用に必要になります。

立命館大阪いばらきキャンパスは、校舎全体がラーニング・コモンズとして設計され、学生がどこにいても、通りがかりであっても議論や学修ができるオープンかつパブリックな環境を創り出している。

（2）同志社大学

同志社大学のラーニング・コモンズには、クリエイティブ・コモンズ（交流と相互啓発の場）とリサーチ・コモンズ（アカデミックスキルの育成の場）が設置されている。この大学は、2つのキャンパスを持っているが以下のとおりエリアには違いが見られる。

特徴として、研究者の知の世界に触れる「COMMONS CAFÉ」を展開している点である。

「COMMONS CAFÉ」とは研究者と珈琲や紅茶を飲みながら気軽にトークを行うイベントで大学らしさが出る取組である、としている。コモンズならではの自由さ、柔軟さで知と触れ合う場の提供をしているようである。

①2つのキャンパスのエリア

（京田辺キャンパス）	（今出川キャンパス）
グループワークエリア	グローバルビレッジ
インフォダイナー	マルチメディアラウンジ
グループスタディールーム	プリントステーション
ワークショップルーム	インフォメーションカウンター
プレゼンテーションコート	

②活用方法

活用方法	人員構成
<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間で話し合い ・ 発表、プレゼン、講演会 ・ 海外の文化に触れる ・ 留学生との交流 ・ 海外 TV 放送鑑賞 ・ イベントのポスター、チラシ、文集作成 ・ 映像資料編集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員 ・ アカデミックインストラクター ・ ラーニングアシスタント（様々な経験の学生） プロフィール、シフト表 ・ 学修支援コーディネーター ・ 留学コーディネーター／留学アシスタント ・ 学生スタッフ ・ ICT サポートスタッフ ・ プリントステーションスタッフ ・ 受付オペレーター

（同志社大学 HP より参照） <https://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/>

（3）北星学園大学

本学と同じ 札幌にある大学として、北星学園大学のラーニング・コモンズは先進的であり、しっかり学生の希望を捉えている点で学ぶことが多い。後述する学生によるピア・サポーター制度は 2014 年発足とすでに歴史もあり、学生がともに育ち合う機会提供になっていると窺える。

a) エリア

エリア
<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーション&セミナーエリア ・ リラクゼーション&コラボレーションエリア ・ クリエイティブプロジェクトエリア ・ グループセッションエリア ・ プリント&コピーエリア
<p>学習サポートデスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習支援プログラムの企画・運営、ラーニング・コモンズの管理・運営

b) 活用方法

活用方法	人員構成
・学修セミナー ・個別学習支援	学修サポートデスクスタッフ 北星ピア・サポーター

c) 利用ルール

- ①学習以外の目的での使用はできない
- ②学外者の利用はできない
- ③飲食は原則不可（水分補給や軽食などによる栄養補給を特例的に許可している）
- ④席を外すときは、15分以内に戻る、貸出備品は一度返却する、貴重品は必ず持ち歩く
- ⑤貸出PCの貸出時間は3時間以内
- ⑥使った席は片付けてから帰る

（北星学園大学 HP より参照）

https://www.hokusei.ac.jp/activity/learning_commons/

7. 実地視察結果

ホームページ上からの情報により、実際に実地視察をして、施設見学や運用についてヒアリングした結果を記載し考察する。

（1）関西大学のラーニング・コモンズ

2021年12月8日（水）に関西大学の千里山キャンパスにあるラーニング・コモンズ（総合図書館内）に視察した。関西大学はラーニング・コモンズに力を入れており、コモンズは主体的な学習を支援する空間となっている。本コモンズを視察することで、本学での取り組みに活かすことができるものはないか検討することが可能となる。

関西大学では、図書館にコモンズを開設する（2015年4月に開設）うえで、以下を課題として挙げている。

- ・図書館内は静謐な個別学習が主体
- ・デジタル情報を得られるスペースが、図書館内では限られている
- ・アクティブ・ラーニングを促し、その成果を発表する場が乏しい

上記の課題を打破するために、関西大学では「学生の主体的な学修を促進する場」の形成を

目的に、「ライティング・エリア」、「ラーニング・エリア」、「ワーキング・エリア」と「ワークショップ・エリア」をラーニング・コモンズ内に設置している。これらのエリアがシームレスに連携することで、学生同士が学び成長していくシステム構築が実現される。

図3 学生の主体的な学修を促進する場の形成



（関西大学 HP より参照） https://opac.lib.kansai-u.ac.jp/?page_id=17309

これら4つのエリアは総合図書館内に配置されていることで、各エリア間の情報共有や学生の動きがよりスムーズとなる。コモンズは、様々なイベントでも活用されており、例えば、ワークショップ・エリアでは図書館主催の講演会や、大学各部局主催のイベント（FD・SD 研修など）が開かれている。ライティング・ラボでは対面でのアドバイス（学修に関して）やオンラインアドバイスを中心に活動しており、学部生や修士課程学生を対象にアカデミックスキル・ワンポイント講座などを開催している。

コモンズ運用において、重要となるのが教職員及び学生スタッフの配置である。関西大学では、以下の通りスタッフを配置している。

a) コモンズ

- ・ 図書館部分は教員の配置なし。職員はバックヤードで専任1名が担当
- ・ スタッフの配置は業務委託スタッフによる運営→ 月～土（9:00～20:00）

- ・ 派遣職員1名と学生スタッフ1～2名のシフト制（年間20数名、学生は17時まで）

b) ライティング・ラボ

- ・ ラボは教育推進部教育開発支援センターの学習環境デザイン・学習支援プロジェクトの活動の一環で運営されている
- ・ ラボ規定ではなく、柔軟な体制で運営されている

ライティング・ラボの構成員は以下のとおりである。

- ◆専任教員 2名（教育推進部）
- ◆専任に準ずる教員 1名（教育推進部 任期制）
- ◆アカデミック・アドバイザー 1名（教育開発支援センター 任期制）
- ◆事務職員（学事局授業支援グループ教育開発支援室）
- ◆ライティング・チューター 21名（博士課程後期課程の学生等）

専任教員はラボ専従ではなく、ラボ全体の取り組みを総括している。専任に準ずる教員とアカデミック・アドバイザーは日常的にラボの運営全体に関与し、研修やイベントの企画運営をはじめ、日常的なラボの運営（予約状況・チューター配置の管理、個別アドバイスの進行状況把握等）を行っている。チューターは、4キャンパスの6か所（千里山3、高槻・高槻ミューズ、堺の各1）にて勤務している。スタッフ間の連携を図るためにも、会議は事務職員を含めたミーティングを月に一度、教員・アカデミック・アドバイザーの打ち合わせを週に一度実施している。

関西大学の視察を終え、札幌国際大学のラーニング・コモンズ運用において、以下の点を考慮すべきことが明らかとなった。

- ・ 3つのコモンズ（ライティング・ラボ、ICT、グローバル）の役割
- ・ 教職員・学生スタッフの配置
- ・ 本学学生のニーズ

本学では、関西大学と異なり3つのコモンズがそれぞれ異なる建物に配置されている。したがって、それぞれの役割、すなわち学生がどのように活用していくのか明確にする必要がある。また、教職員および学生スタッフの配置（人数や役割）についても検討が必要となる。最後に、本学の学生がどのようなサポートが必要なのか、学生のニーズに沿ったコモンズを展開していくことが求められるであろう。

（２）梅光学院大学（校舎自体がラーニング・コモンズの例）

梅光学院大学のコモンズは、上記の立命館大学に類似しており、校舎全体がラーニング・コモンズとして造られている。この校舎、クロスライト（CROSS LIGHT）を実地視察してきた。斬新な発想から創られたクロスライトは、本学のラーニング・コモンズに示唆を与えるものである。

この校舎の特徴は、校舎の Concept 1 のとおり、教室等の壁を撤廃し、段差や吹き抜けなどによりスペースを区切る形で校舎全体はオープンな空間となっている。壁がない分、いつでもだれでもその空間に入ることができる。実際に視察をしたので写真を掲載する。視察中に対応して下さった教員、職員の方が学生に気楽に声かけ、学生も気軽に応えている姿から、実際の壁を取ることで心の壁もなくなっているように見えた。（下記写真）

梅光学院大学は、学生を主役に学修を定着させるために、オール・アクティブ・ラーニング宣言をしており、その教育改革を進めるためにできたクロスライトは、学生が主体となって活動できる創造の場であることを十分に計画した校舎であり、このような校舎で学生が自由に学び合うことができる。Concept2 にあるように、学生が自分で考えることを意図し、新しい価値を生み出していく力を育む場として、コモンズがただの教室とは違い、その用途を十分に考察され構成されることが重要であることが窺える。

また、大学であれば教員研究室や事務室がどこにでも当然あるが、梅光学院大学は教職員すべてフリーアドレス化し、教職員が協働しやすい環境にしていることは稀有であり、教職員の覚悟が見える。

Concept 1 光と風と人が交錯する オープンな空間

光と風と人が交錯する オープンな空間

「教育を受ける」ことを中心に設計されてきた従来型の校舎とは対照的に、教室や廊下の区別を極力なくし、各空間を連続体としてゆるやかに連ねた設計となっている。学生達の活発な導線を生み出し、人と人との多様な交流の実現をめざしている。また、自然の光や風を取り込めるように設計された心地よい空間デザインである。

Concept2

自分で考え、新しい価値を生み出していく力を育む場

グローバル化の進展やテクノロジーの急速な発達によって、将来の予測が困難な時代があり、このような時代を生き抜くためには、すでに存在する「正解」を見つけるのではなく、自分で考え、新しい価値を生み出していく力が求められる。本校舎は、学生たちのそうした力を育むため、体験・経験を重視した学びを可能にする。

Concept3

日本初！教職協働のフリーアドレスオフィス

多くの日本の大学では、教員は個人研究室で研究や授業の準備を行うが、ここでは「教職協働（教員と職員が一体となって学生を育てる）」の観点から、全く新しいスタイル、本校舎1階のフリーアドレスオフィス（固定席がないオフィス）で、教職員がともに学生を育てる。

（梅光学院大学 HP より参照）

<https://www.baiko.ac.jp/university/juken/crosslight/>

梅光学院大学では、クロスライトを中心にピア・サポーターの制度を設けている。授業で、上の学年が下の学生をサポートしたりするが、今では学生が実際にカリキュラムを考えている。

a) うめワーク（学生ワークスタディ）

- ・オープンキャンパス、インフォメーションカウンターなどでの学内学生アルバイト
- ・海外プログラムの料金を梅ワーク報酬＋奨学金で賄うことができる
- ・アルバイトではあるが教育的意義をもって実施しており、採用にあたっては面接を実施している。（年2回）

b) サポーター及びSA制

- ・留学生サポーター：在学する留学生との交流イベント企画など、留学生支援を行う
- ・BUCHI サポーター：新入生オリエンテーション企画、新入生の生活や学習支援を行う
- ・図書館サポーター：図書館の展示やオープンキャンパスの案内など、図書館支援を行う
- ・SA：梅光サービスという制度で、1年生が大学の学びに馴染むよう提供している

（3）東北公益文化大学

東北公益文化大学を視察しラーニング・コモンズを見学してきたので記載する。

2017年4月、教育研究棟にラーニング・コモンズ（愛称ラーモンズ）を開設した。学生教職員は、平日は毎日9時～23時まで、土日祝日、長期休暇中は9時から17時まで利用できる。室内には可動式の机やホワイトボード、電子黒板などを備え、学生と教職員がグループワークやディスカッション、プレゼンテーションの練習をすることができる。

また、自習エリアで集中して学修したり、ゆったりしたソファ席で仲間と学びあうことも可能である。受付カウンターには授業期間中の平日（日中）に大学院生がTAとして常駐しており、レポート作成や必修科目の支援等に対応するなど、コモンズ内で学修する学生の支援が始まっている。

なお、カウンターでは短焦点のプロジェクター、タブレット、ノートパソコン、ディスプレイなどを貸し出している。

エリア

- ・ グループワークエリア（可動式の机と椅子で人数に応じたレイアウト変更が可能）
- ・ プレゼンエリア（プレゼンテーションの練習などができる。壁面ホワイトボードは自由な発想、創造的な活動を促進）
- ・ 個別学修エリア（仕切り付きの1人掛けのスペースで読書や自習）
- ・ ミーティングエリア（スタンディングミーティング（立ち会議）などに活用）
- ・ ソファエリア（ゆったりしたソファ席でリラックスしながら学修。グループ内のコミュニケーションを促進）

（東北公益文化大学 HP より参照）

https://www.koeki-u.ac.jp/facilities/education_building_Learmons.html

以下は実際にラーニング・コモンズや授業を見学したものである。

グループワークエリア



ラーモンズ入り口



アクティブラーニング（授業中）



8. 本学における3つのコモンズの制度構築

（1）本学のラーニング・コモンズのコンセプト

本学のラーニング・コモンズは、「楽しく学べる、共に学べる、学びあいで伸びる場と空間」をコンセプトに、学生が共に育ち合う「協働の場」と「支援の場」を提供することにある。

（2）3つのコモンズの役割

本学のラーニング・コモンズは、①ライティング・ラボ、②グローバル・コモンズ、③ICT・コモンズの3つを設置する。それぞれの設置目的は以下の図3のとおりである。

図4 ラーニング・コモンズ、ライティング・ラボの役割



①ライティング・ラボの役割（学習支援の場）

大学のユニバーサル化の進展により、学習支援を必要とする学生が増え、読み書きという知的活動の基礎となる知識、技能について支援が必要になり、多くの大学でライティングセンターが設置されている。ライティング・ラボは、様々な学習レベルに対応できるよう、授業と関連する支援システムを確立して行う必要がある。

本学のライティング・ラボは1号館4Fに学修の「支援の場」して設置する。その役割は主に以下の2点にある。

- 学修に困難をきたしている学生への学修サポート
- ゼミや課題解決型授業の課題作成のためのグループワーク

学修に困難をきたしている学生に対し、ライティング・ラボメンバーが個別に対応をする。特に、日本語表現や基礎ゼミの学修支援を中心に扱う場として、日本語表現の担当教員

や基礎ゼミアドバイザーとの連携で、授業に関連した学修支援を実施する。

ライティング・ラボは個別指導エリア、グループワークエリア、カフェエリアに別れ、スタッフが常駐する事務室が付設される。

ライティング・ラボの想定する活用方法は、以下が考えられる。

- ・日本語表現入門クラスの課題の補完的個別支援
- ・レポート・論文作成などの学修支援
- ・留学生の日本語、英語、数的処理などについての支援
- ・プレゼンテーション、地域アクティビティなどの課題解決型授業のグループワーク

このような活動をエリアによって使い分け、個別学習支援の場、協働の場として活用する。

ライティング・ラボでは、PC 貸出やその他の学習支援（課題提出など）のスタッフ機能も含み、スタッフが常駐するが、さらにワークスタディで学生を配置することで、学生による運営から学生目線を重視したサポートができる。

【2022 年度イベント案】

- 4 月 MANABA・ZOOM の使い方（要検討）
- 5 月 ノートテイキング
- 6 月 レポートを書く手順
- 7 月 資料の探し方

②グローバル・コモンズの役割（交流の場）

グローバル・コモンズは、1号館3Fに「交流の場」として設置する。その役割は以下の3点にある。

- a) 日本人学生と外国人留学生、外国人留学生同士の交流スペース（居場所づくり）
- b) 学生の自習・学生主体勉強会（グループワーク等）の自発的活動への誘導
- c) 年間を通して各種イベントを実施

グローバル・コモンズにおいて、日本人学生と外国人留学生、留学生同士、日本人学生同士が集うエリアとする。

グローバル・コモンズの想定する活用方法としては、以下が考えられる。

- ・各国学生によるプレゼンテーション
- ・英語、中国語、韓国語などのスピーチ
- ・映画上映

- ・コモンズカフェ（COMMONS CAFÉ）（お茶の飲みながら、教員の専門に触れる、留学生の国の文化に触れるなど）
- ・イベント、パーティ（文化交流、季節のイベント等）
- ・日常的な留学生支援
- ・学生の自習

③ICT・コモンズの役割（スキルの場）

ICT・コモンズは、情報教育センター2階に ICT スキルを向上させる場として設置する。用途により、ICT サポートエリアとプレゼンエリア、プリントエリアに別れ、学生は自由に使用することができる。その役割は以下の2点にある。

ICT サポートエリアの想定する活用方法としては、以下が考えられる。

- a) ICT 学習支援（PC の使い方，Word・Excel・Powerpoint の使い方等）
- b) ICT スキル向上のためのイベント

プレゼン・プリントエリアの想定する活用方法としては、以下が考えられる。

- ・ IT パスポート資格取得講座
- ・ プログラミング講座
- ・ イベントプレゼンエリア ICT（PC・プリンター等）スペースの提供
- ・ PC スキルコンテストなどのイベント
- ・ ICT・コモンズカフェ（COMMONS CAFÉ）（AI・データサイエンスの世界など専門家の講話）

（3）ラーニング・コモンズの運用

①コモンズの所管

ラーニング・コモンズの所管は全学共通教育部で、全体統括は教養教育部とする。それぞれの担当部署、開室時間は以下のとおりとする。

表 1

コモンズ名	開室時間	主担当	担当部署	担当事務局
ライティング・ラボ (学習支援エリア)	月～金 8:00～ 21:30 土 8:00～ 19:00 日 8:00～ 17:00	教養教育部	ライティング・ ラボ室	教務課
グローバル・コモンズ (交流エリア)	月～金 8:00～ 21:30 土 8:00～ 19:00 日 8:00～ 17:00	教養教育部	外国語教育部 日本語教育部	国際課
ICT・コモンズ ICT サポートエリア	月～金 8:00～ 21:30 土 8:00～ 19:00 日 8:00～ 17:00	教養教育部	情報教育部	情報システム課

※事務局在室時間は 9:00～17:00

②運用の工夫

a) 初年次教育との紐づけ

- ・ 「日本語表現入門」で成績不振学生の状況を把握し、タイムリーに補完的指導をするスケジュールリングをする。
- ・ 全1年生が各学期に一度は利用する仕組みをつくる。（例：レポートの体裁確認）
- ・ イベントの昼休み活用・30分程度

活用に関しては、初年次「基礎ゼミ」との紐づけや、全1年生がラーニング・コモンズの場所及び活用法を理解するため、利用方法を書いたパンフレットを配布するなどが考えられる。できればHP上にラーニング・コモンズを紹介することで利用方法も得られるようにしたい。また、アドグルごとに訪問して活発な使用に繋げる工夫も必要であろう。

以下はラーニング・コモンズを表すポスターである。

学ぶ楽しさを発見。
在学中も卒業後も成長できる力が身につきます。

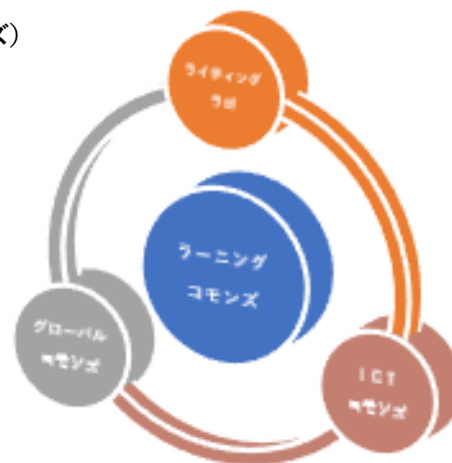
【ラーニング・コモンズ】

ラーニング・コモンズのコンセプト

「楽しく学べる、共に学べる、学びあいで伸びる」場と空間の提供

- ・協働の場（グローバルコモンズ）
- ・支援の場（ライティングラボ・ICTコモンズ）

- ◇ **ライティングラボ（1号館4階）**
学習サポートエリア
役割：レポート・論文作成に関する支援
PC貸出など
- ◇ **グローバルコモンズ（1号館3階）**
日本人学生と外国人留学生が集うエリア
役割：交流スペース
学生主体勉強会（グループワーク等）
- ◇ **ICTコモンズ**
ICTサポートエリア
役割：ICT学習支援（PCの使い方等）
ICTスペースの提供



ライティングラボでできること

ライティングラボのスタッフからライティングサポートを受けたり，論文やレポートを作成できるよう個別相談を受けることができるスペースです。

開室時間： 月一金 8：00～21：30

スタッフ滞在： 月一金 9：00～17：00

受付には担当スタッフが常駐し、ノートパソコンの貸し出しや使用法の説明、予約受付などを行います。



ラウンジ



個別学習スペース



共同学習スペース



© SAPPORO International University All Rights Reserved.

【グローバル・コモンズ】

世界に目を向けよう！
「多言語・多文化」をコンセプトとした学びの空間です。



グローバル・コモンズでできること

「外国語をもっと学びたい」「海外へ留学したい」「留学生と交流したい」
など皆さんの言語学習・国際交流に関する要望に応えるスペースです。
国際課のスタッフが常駐し、皆さんの自由な学びをサポートします。

- 海外への留学相談
- 留学生の生活支援
- 開室時間が長いので授業の前後もゆっくり利用可能
- 個室のブース（PC設置）もあるので静かに自主学習もできます
- 国際交流イベントや外国語を話す機会、様々なアクティビティを提供します



気軽に参加できる英語の無料プログラム(English Village)

英語で学ぶセミナー(SIU Talks)に無料で参加できます

世界の文化や行事に触れられるイベントも各種開催！

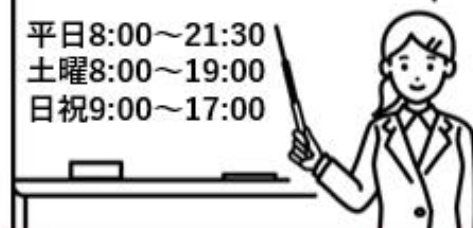


グローバル・コモンズは
個人でもグループでも自由に使える
学びと交流の場です。

「グローバル」という名称ですが、誰でも気軽に自由にご利用いただけます。
グループ・個人での学びはもちろん、飲食や休憩などでも
お立ち寄りください。
みなさんの利用をお待ちしています！

グローバルコモンズ開室時間

平日8:00～21:30
土曜8:00～19:00
日祝9:00～17:00



Sapporo International University Global Commons

日常的な ICT 活用で情報活用能力が身に付く

ICT コモンズ

ICT コモンズのコンセプト

大学でよりよく学ぶために、ICT 活用は必須です。授業の復習、レポート作成、プレゼン資料作成、興味をもったことのさらなる追究など、大学での学びの多くが ICT 活用に支えられています。

そのための情報活用能力のスキルアップを確かなものとするため、本学には「ICT コモンズ」があります。

ここでは、教員だけではなく先輩学生サポーターから教えてもらう講座も企画します。ICT を活用するスキルを学生同士で向上させるスペースとしても有効に活用できるようになっています。

プログラミングやグラフィックデザイン…、ホームページ作成など、ICT 機器を使って、こんなことに挑戦してみたい!という、学生のみなさんの提案もお待ちしております。

うまく活用し、4 年間（2 年間）で、社会で必要とされるスキル以上のものを身に付けてください。

開室時間： 月～金 8:00～21:30

スタッフ滞在： 月～金 9:00～17:00

受付には担当スタッフが常駐し、ヘッドセットの貸し出しや機器の使用法の説明をします。

企画提案もお待ちしております。



ICT コモンズでできること

自己学習

- ポートフォリオ作成
- CBT 試験演習
- オンライン学習サイト利用

講座

- IT パスポート講座
- SNS 活用講座
- PC スキル講座、質問会
- オンラインツール活用講座

発表、グループワーク

- プロジェクト成果発表
- プログラム作品品評会
- データ分析ロールプレイ



© SAPPORO International University All Rights Reserved.

（４） ３つのコモンズのルール

グローバル・コモンズラボにおいては飲食を可とするが、ICT・コモンズは禁止とする。ライティング・ラボについては検討を要する。それ以外は、あまりルールを厳しく決めるのではなく、学生が自由に使えるよう、「他利用者の迷惑にならない行動を心がけましょう」というところで様子を見ながら進めたい。

9. ピア・サポート制度の構築

他大学において既に取り組んでいる例が多々あるが、特に、立命館大学と北星学園大学のピア・サポート制度に学びたい。

（１）立命館大学のピア・サポート制度

立命館大学のピア・サポート制度は、仲間から多くのことを学ぶ。学びを通してお互いを高め合うとして、学生同士が互いに支え合いながら個として成長する制度である。その種類は以下のとおりである。約 40 団体・約 4000 名の学生がサポーターとして支援活動を行う一大組織である。

正課授業だけではなく、正課外にも海外留学や資格取得講座、課外自主活動など広範囲にわたる学びの場「学びのコミュニティ」があり、学生一人ひとりがもつ能力を活かして目標を実現できる機会やプロセスを整備している。

①学習サポート

- ・ オリター（エンター）・・・「大学での学習への適応」の支援を行う
- ・ TA（ティーチング・アシスタント）
- ・ ES（エデュケーショナル・サポーター）

②生活サポート

- ・ ライブラリースタッフ
- ・ 学生ボランティアコーディネーター
- ・ 障害学生支援室サポートスタッフ

③広報

- ・ 入試広報学生スタッフ（オープンキャンパススタッフ）
- ・ 広報スタッフ

④キャリアオフィス

- ・ CA（キャリア・アドバイザー）
- ・ JA（ジュニア・アドバイザー）

⑤国際教育センター

- ・ 留学生チューター
- ・ 留学アドバイザー
- ・ 留学生バディ
- ・ 留学支援団体「まいる」、留学サポーター
- ・ BBP（Beyond Borders Plaza）マネジメントスタッフ

（立命館大学 HP より参照）

<http://www.ritsumeit.ac.jp/lifecareer/activity/peer/>

（2）北星ピア・サポーターの概要

北星学園大学の北星ピア・サポーターは全学部・学科から公募・推薦で選出する。組織上全体のリーダー1名と副リーダー4名、各メンバーにより学科と係活動の2つで組織されている。ピア・サポーターは学科の代表であるため、学科ごとの活動と係活動として係に所属して北星ピア・サポーター全体の組織の運営を担っている。（図5）

①学科ごとの活動

- ・ ラーニング・コモンズでの受付業務
- ・ 大学の授業の仕組みや学科の特色などの説明会
- ・ 履修相談会（時間割の作り方、科目の選び方、履修登録の方法など）
- ・ 勉強会企画・運営
- ・ イベント企画・運営

②係活動

- ・ 総務人事係
- ・ 企画係
- ・ 広報係

③利用ルールは以下のとおりである。

- ・ 学習以外の目的での使用はできない
- ・ 学外者の利用はできない
- ・ 飲食は原則不可（水分補給や軽食などによる栄養補給を特例的に許可している）
- ・ 席を外すときは、15分以内に戻る、貸出備品は一度返却する、貴重品は必ず持ち歩く
- ・ 貸出PCの貸出時間は3時間以内
- ・ 使った席は片付けてから帰る

図5



図6



（北星学園大学 HP より参照）

https://www.hokusei.ac.jp/activity/peer_supporter/

<https://cgw.hokusei.ac.jp/learning-support/kokoroe/>

（3）札幌国際大学の学生ピア・サポート制度案

本学のピア・サポートは、授業のアシスタントとコモンズスタッフの2種類で組織する。選抜されたピア・サポーターは、授業の運営アシスタントとして授業担当教員との綿密な打ち合わせ、授業実践、振り返りをする。後輩の指導に参画することで、自分自身が成長するとともに、ロールモデルとして後輩の目標にもなり、共に育ち合う場を形成する。

また、コモンズスタッフは、ラーニング・コモンズ、ライティング・ラボの受付、企画・運営に参画することで、学生としてコモンズ利用者の目線から、コモンズの運営を客観的に見つめ、一段上の視点でコモンズ運営を考えることになる。

①授業のアシスタント（TA/SA）

授業のアシスタントをするティーチング・アシスタント（TA）とスチューデント・アシスタント（SA）は、札幌国際大学ティーチング・アシスタント及びスチューデント・アシスタントの規程に即し、その選考基準により公募の形で募集し選考をする。選ばれた学生は、全学共通科目の必修科目「学生と社会」、「学びの技法」等の大型クラスにおけるアシスタントや「情報機器操作」などのアシスタントを想定している。

②コモンズスタッフ（ワークスタディ）

コモンズスタッフは、札幌国際大学学内ワークスタディ規程に即し、全学生を対象に公募

の形で選抜をする。コモンズスタッフは、ライティング・ラボにおける受付（PC の貸し出し、スケジュールリング等）やイベントの企画、運営などを担当する。

10. おわりに

本学におけるラーニング・コモンズは、2021 年度工事を行い一部スタートしていたが、2022 年度に 3 つのコモンズが出揃い実質利用開始をする。今回の調査、研究により、他大学の情報、実地視察での状況把握を参考にすると、コモンズのコンセプトは「創造」、「新しい価値を生み出す」、「学生同士」、「学び合う」などが共通していた。どの大学もコモンズを学生が自由に使える場にする事で、枠にはめず柔軟に思考し「創造の場」としての施設の設置方法に多くの工夫があることが分かった。それぞれそのコンセプトにより、学生自ら考え学生どうしの協働により創造力を育成する場として活かしていることが分かった。

またコモンズとピア・サポーターはセットで考えているのが現状である。コモンズの運営をピア・サポート制度により学生サポーターが企画、運営するなど、学生の視点を活かしてより学生に必要なことを企画、実践していることが把握できた。ピア・サポーターによる履修指導や学習サポート、生活サポート、広報活動、留学生チューター、留学アドバイザーまでもピア・サポーターが担当することで、学生どうしが共に育ち合うことが把握できた。

本学では、まずは TA/SA とコモンズスタッフを考えているが、その制度をより拡大し大学の中で行われるより広範なサポートを学生が担当し、主体的に活動できることで間違いなく学生は育つと考える。今回調査した大学を参考に、学生サポーターが学内外のさまざまなところで力を発揮し、自分の能力を伸ばす場として、またプラットフォームとしてラーニング・コモンズを活用して行きたい。

社会では、より主体的に考え、新たな発想でモノやコトを創り、自らアップデートできる人材が求められている。また、これまでとは異なるリモート勤務等の導入により、働く場や働き方自体が設計図のない時代に入り、より個人の確かな力が求められている。このような能力育成の舞台として 3 つのコモンズを利用し、学生が自ら考え、議論し協働することで、失敗や成功を経験し育っていく場としての活用するシステムを構築する第一歩として本研究に取り組んだ。

【参考文献】

米澤 誠（2009）「ラーニング・コモンズの本質：ICT 時代における情報リテラシー／オープン教育を実現する基盤施設としての図書館」 名古屋大学附属図書館研究年報

三根慎二（三重大学 人文学部）（2012）「ラーニング・コモンズはどのように利用されているか：三重大学における事例調査」 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集

田中俊也・岩崎千晶（2012） 「学びをサポートする学生・院生の教育力の活用」 関西大学 高等教育研究

山内祐平（2011）「ラーニング・コモンズ と学 習支援」情報 の 科学 と技術 61 巻 12 号

「人生 100 年時代の社会人基礎力」

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/Ecforthe100-yearlife.pdf>

「我が国産業における人材力強化に向けた研究会」（人材力研究会）報告書

平成30年3月 経済産業省 中小企業庁

https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/data/pdf/20180319001_1.pdf

経済産業省「社会人基礎力」

<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>

立命館大学（大阪いばらきキャンパス）HP

http://www.ritsumeit.ac.jp/oic_commons/

同志社大学 HP） <https://ryoshinkan-lc.doshisha.ac.jp/>

北星学園大学 HP

https://www.hokusei.ac.jp/activity/learning_commons/

https://www.hokusei.ac.jp/activity/peer_supporter/

関西大学 HP https://opac.lib.kansai-u.ac.jp/?page_id=17309

梅光学院大学 HP

<https://www.baiko.ac.jp/university/juken/crosslight/>

2021（令和3）年度奨励研究（コモンズ）報告書

東北公益文化大学 HP

https://www.koeki-u.ac.jp/facilities/education_building_Learmons.html

立命館大学 HP

<http://www.ritsumeit.ac.jp/lifecareer/activity/peer/>

【資料1】 関西大学 視察報告書

報告者：田部井

日時：2021年12月8日 10時～

場所：総合図書館 ラーニング・コモンズ ライティング・エリア

1. ラーニング・コモンズ

- (1) ライティング・エリア（ライティング・ラボ管轄）
- (2) ラーニング・エリア
- (3) ワーキング・エリア
- (4) ワークショップエリア

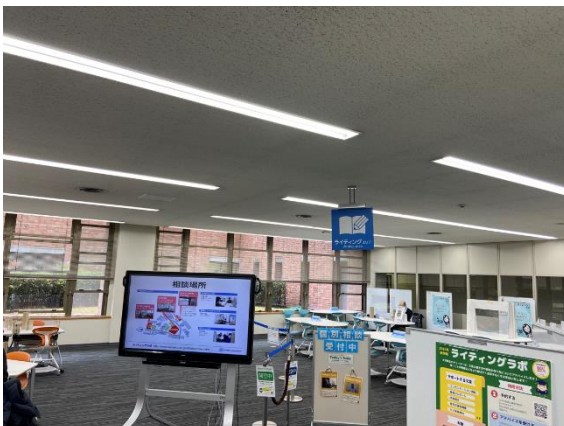
図書館入口



コモンズ入口



(1) ライティング・エリア



(2) ラーニング・エリア



（3）ワーキング・エリア



（4）ワークショップ・エリア



2. コモンズでのイベント実施について

コモンズ

- ・ 図書館主催の講演会
- ・ 大学各部局主催のイベント（講演会，FD・SD 研修など）

ライティング・ラボ

- ・ 対面アドバイス・オンラインアドバイスを中心に活動
- ・ 学部生，修士課程学生を対象にアカデミックスキル・ワンポイント講座など
- ・ 通常イベントは昼休み時に開催（限られた時間内での図書館への移動が難しいため）

3. 教職員・学生スタッフの配置と運用について

コモンズ

- ・ 図書館部分は教員の配置なし．職員はバックヤードで専任1名が担当
- ・ スタッフの配置は業務委託スタッフによる運営→ 月～土（9:00～20:00）
- ・ 派遣職員1名と学生スタッフ1～2名のシフト制（年間20数名，学生は17時まで）

ライティング・ラボ

- ・ ラボは教育推進部教育開発支援センターの学習環境デザイン・学習支援プロジェクトの活動の一環で運営されている
- ・ ラボ規定などではなく，柔軟な体制で運営されている
- ・ ラボに関わる教職員（専任～事務職員）は千里山キャンパスに常駐

- ◆ 専任教員 2名 （教育推進部）
- ◆ 専任に準ずる教員 1名 （教育推進部 任期制）
- ◆ アカデミック・アドバイザー 1名 （教育開発支援センター 任期制）
- ◆ 事務職員（学事局授業支援グループ教育開発支援室）
- ◆ ライティング・チューター 21名（博士課程後期課程の学生等）

- ・ 専任教員はラボ専従ではなく、ラボ全体の取り組みを総括している。
- ・ 専任に準ずる教員とアカデミック・アドバイザーは日常的にラボの運営全体に関与している。研修やイベントの企画陰影をはじめ、日常的なラボの運営（予約状況・チューター配置の管理、個別アドバイスの進行状況把握等）を行う。
- ・ チューターは、4キャンパスの6か所（千里山3，高槻・高槻ミューズ，堺の各1）にて勤務している。
- ・ 会議は事務職員を含めたミーティングを月に一度、教員・アカデミック・アドバイザーの打ち合わせを週に一度実施している。

4. 利用者数の管理・カウント方法について

基本的には予約管理システムを活用し、ラーニング・エリアについては目算（1日に数回）



【資料2】

梅光学院大学 視察報告書（部分抜粋）

令和4年2月19日

訪問日： 令和4年2月19日

訪問先： 梅光学院大学（山口県下関市）

目 的： 梅光学院大学の以下の取り組みについての視察

1. 国際交流プログラムに関して
2. 国際教養専攻に関して
3. サポーター制度、ワークスタディ制度の運用
4. 先進的な戦略担当部局に関して
5. IRの組織や状況に関して

1. 梅光学院大学の学部構成

文学部 人文学科 （入学定員210名、収容定員864名）

国際教養専攻（2022年4月開設）

英語コミュニケーション専攻

国際ビジネスコミュニケーション専攻

東アジア言語文化専攻（中国語、韓国語）

子ども学部 子ども未来学科 （入学定員100名、収容定員410名）

児童教育専攻（教育総合コース、子ども英語コース、子ども心理コース）

幼児保育専攻

2. 特徴

うめワーク（学生ワークスタディ）

- ・オープンキャンパス、インフォメーションカウンターなどでの学内学生アルバイト
- ・海外プログラムの料金を梅ワーク報酬＋奨学金で賄うことができる
- ・アルバイトではあるが教育的意義をもって実施しており、採用にあたっては面接を実施している。（年2回）

サポーター及びTA制

- ・留学生サポーター：在学する留学生との交流イベント企画など、留学生支援を行う

- ・BUCHI サポーター：新入生オリエンテーション企画、新入生の生活や学習支援を行う
- ・図書館サポーター：図書館の展示やオープンキャンパスの案内など、図書館支援を行う
- ・S A：梅光サービスという1年生が大学の学びに馴染むよう提供している
授業で、上の学年がサポート。今では実際にカリキュラムを考えている

3. 施設

2020年に新校舎（CROSS LIGHT）が完成。

特徴は、教室等の壁を撤廃し、段差や吹き抜けなどによりスペースを区切っていることと、教員研究室、事務室をすべてフリーアドレス化していること。

CROSS LIGHTの1Fには大学生協が運営するCAFÉ&BAR（アルコール提供有）がある。

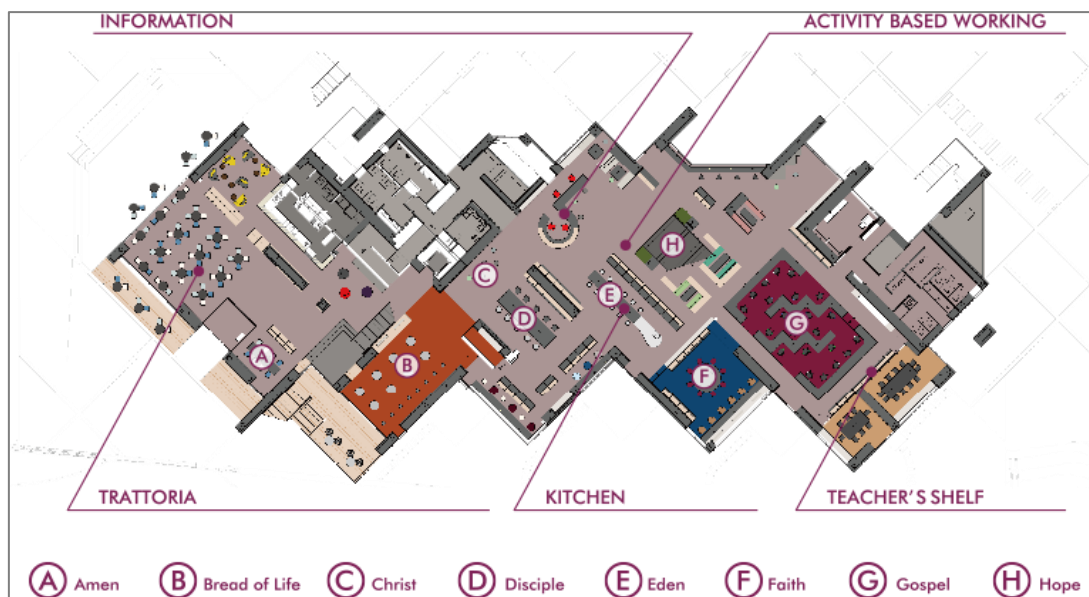
外観



図書館



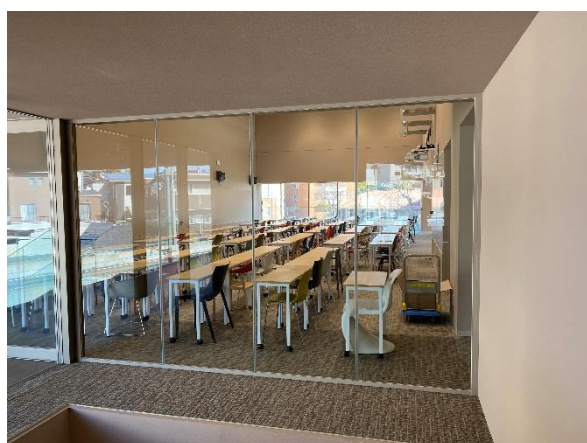
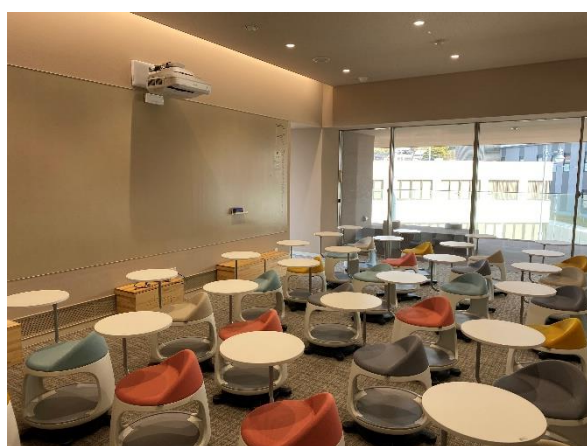
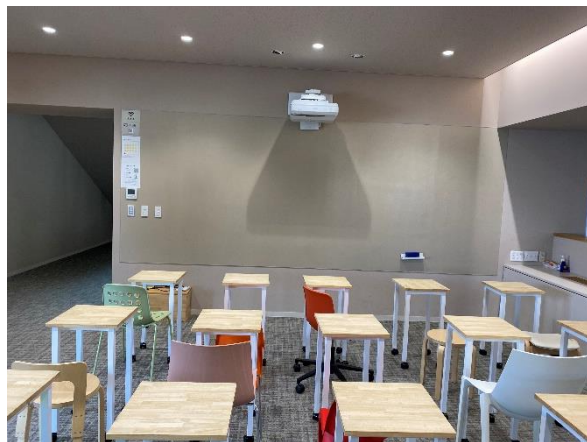
GROSS LIGHT



梅光学院大学 HP <https://www.baiko.ac.jp/university/juken/crosslight/>

2021（令和3）年度奨励研究（コモンズ）報告書

教室



2021（令和3）年度奨励研究（コモンズ）報告書



事務スペース、教員スペース

